

| | |
|-----|--------------|
| 団体名 | 福豊川に魚道をつくる会 |
| 事業名 | みんなで作ろう手作り魚道 |

私たちの活動する美幌町は、基幹産業が農業と言うこともあり、昭和 50 年代を中心に畑の生産性を高めるために農地改良が行われてきました。それに伴い水はけを良くするため、川が直線化され、落差工と呼ばれる小さな段差が川に次々と造られました。すると川にくらすサケやマスなどの魚が、段差を越えられず上流で産卵することが出来なくなりました。そこで、私たちはこうした段差を解消し、魚が川を自由に行き来できるようにするため、手作りの魚道を設置しました。

活動は、魚道づくりと、効果検証調査、普及啓蒙の3つにわかれます。

まず、魚道づくりです。雪解けが落ち着いた平成 27 年 5 月。専門家の方と共に落差工の測量を行い、それを基に設計図を作成しました。もちろん、魚道設置のための許可は頂きました。



さて、この魚道は、地元のカラマツ材と畑から取り除かれた石を使った魚道です。骨組にはカラマツ材を使い、ネジやカスガイを使ってその材を連結します。骨組が完成した後は、この中に石を詰めます。1mの落差を解消するため、石と土のう袋をスロープになるように積み上げていきます。たくさんの石を入れなければならないので、大変な作業でした。



平成 27 年 10 月 24 日の魚道づくりの日は、会員や地元の住民、大学生など 24 名が魚道づくりに参加し、魚道を完成させることが出来ました。ちなみに、この魚道は、幅 1m 程度です。この設計で魚道がうまく機能すれば、川幅の広い川であっても、幅 1m 程度の工事で、魚道設置が可能になります。今後、手作り魚道を普及させる上でも、期待できる魚道になりそうです。



次に、魚道の効果を検証するため、落差工の上流と下流で魚類の調査を行いました。その結果、落差工の下流のみでアメマスが確認されました。今後、魚道設置によって魚の遡上が期待されます。また、自動撮影装置を用いて落差工上流域の動物相を調査しました。その結果、平成 27 年 8-9 月にかけては、川周辺でヒグマが観察されました。ヒグマが観察された時期は、魚が遡上する時期と重なります。魚道設置を待ち望んでいるのは魚だけでは無いようです。



最後に、普及啓蒙活動です。今回の魚道づくりや、調査のよって得られた成果を地元的美幌博物館のロビー展として開催しました。



こうした活動を通して、川の自然を取り戻すことが出来ました。今後は、手作り魚道を維持管理しながら、生き物たちの再生を見守っていきたいと考えています。